

オープン カレッジ

毎年8月2日から7日まで、ねぶた祭が開催される

青森市は200万人を超える多くの観光客でにぎわ

い、地元は活気満ちあふ

れる。この期間はホテルが混雑し、価格も通常期の数倍となる。

2018年はホテルだけでなく、通常1時間300円のコイン駐車場が1時間5千円と約16倍の料金となりコースとなつた。

18年のねぶた祭の期間には、ロシアの富豪が所有するメガヨットAが青森港に

もなる。クルーズ客船の寄港による経済波及効果が期待され各地で寄港誘致が行われているが、メガヨットについても同様の期待から寄港誘致が行われるようになつていて。

16年3月の「明日の日本を支える観光ビジョン構想

会議」で策定された「新たな観光ビジョン」では、インバウンドを20年までに4千万人、30年までに6千万人とすることが目標とされたが、インバウンドの「量」の拡大だけではなく、消費支出額の増加という「質」の向上も重要である。旅機のファーストクラスやビジネスクラスがエコノミークラスの付加価値よりも

大塚家具の業績の悪化が話題となつていて、高級品から中級品へ商品の幅を広げることで客層の拡大につながると考えたが、家具は一度購入すると長期間の使用となり頻繁な買い替えが期待できず、高級志向の顧客に高価な家具を売ることで利益をあげる方が望ましかつたといえる。

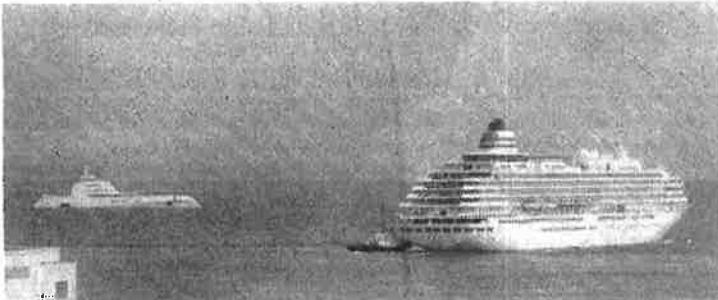
体験型観光による 「質」の向上

寄港した。その船体は全長が100mを超える、プールはもちろんヘリポートを備えるなど、個人所有の船としては規模の大きなものである。巨大なメガヨットは燃料などの支出額も大きく、1ヶ月で約4千万円に



幡山文学園大学
現代マネジメント学部准教授
水野 英雄

みづの・ひでお
国際経済学、
貿易政策、経済政策。名古屋大学
大学院経済学研究科博士課程後期
課程退学。1968年生まれ。



A (左)と飛鳥II
青森港へ寄港したメガヨット

富裕層向け観光ビジネスの展開

るかに大きいように、クルーズ客船でもカジュアルクラスよりもラグジュアリークラスやプレミアムクラスといった豪華客船、鉄道においても豪華列車で富裕層

や超富裕層の顧客の心をつかむことが利益の拡大となる。

日本には中国からの観光客が多く訪れ、一時は「爆買」が行われたが、中間層へ客層が広がった現在はそのような状況は見られなくなつた。今後は中国だけでなく欧米からの観光客、特に富裕層の観光客の増加を目指す必要がある。メガヨットAは、青森港だけではなく日本各地に寄港しており、ロシアの大富豪が日本に関心を持っていることを示している。欧米から見ると日本文化は興味深いものである。冒頭述べたねぶた祭りのように、観光資源を活用し日本の歴史や文化、季節(四季)、さらに日常生活といったところでの豊かな体験型観光で欧米の富裕層を引き付けることが必要である。